



## NPO PTPL “ともいき” 便り No.134

平成 29 年（2017 年）11 月 7 日発行

### ■立冬（りっとう） 11 月 7 日から 11 月 21 日までの節気

ぐんと寒くなりました。10 月 30 日には昨年より 10 日早く、東京地方で木枯らし 1 号が吹きました。気持ちのよい秋の季節は短くて、あっというまに冬になってしまうのでしょうか。二十四節気では 11 月 7 日から 22 日まで、「立冬」の節気には入ります。小春日和が嬉しいころです。

11 月 15 日は七五三です。旧暦をつかっていたときも、11 月 15 日でしたから、この日はほぼ満月でした。ちなみに、今年の旧暦 11 月 15 日は新暦では来年の 1 月 1 日。ずいぶん寒いときにお参りにいく年もあったのですね。

七五三は、我が子が 3 歳、5 歳、7 歳になると神社につれていって、「おかげさまで、こんなに成長しました。どうぞ、これからも見守ってください。」と祈願する、日本独特の行事です。

今の七五三は、ホテルでパーティをしたり、ドレスやスーツや和服姿で写真を撮ったりと、バラエティに富んでいるようです。私の双子の息子たちは、5 歳のとき、セーターと半ズボンという普段着で神社にお参りにいきました。家に戻ると、祖母が大きなぼた餅をお祝いに作ってくれたのを思い出します。

七五三につきものの千歳飴は、千年も長生きしてほしいという願いをこめて子どもたちに持たせる縁起物。袋の柄が、鶴や亀が描かれていて美しいです。

「亥の子」と「十日夜」の行事をご存知ですか。「亥の子」は主に西日本の行事で、11 月の第一亥の日、今年は 11 月 8 日に行われます。「十日夜」は主に東日本の行事で、旧暦 10 月 10 日に行われていましたが、現在は毎年 11 月 10 日に行われています。どちらも、農耕を終えた収穫祭で、田の神を送る行事です。こどもたちが縄を結んだ石や、わら鉄砲と呼ばれる藁の棒をもって、家々を回りながら地面をたたいてはやしたてます。はやし言葉は、亥の子の行事ではこんなふうです。「亥の子の晩に 祝わん者は、鬼 産め、蛇 産め・・・」。

ちよつとこわいですね。こどもたちは、その家から、おもちやお菓子をもらえると、「繁盛せい 繁盛せい」といい、もらえないと「貧乏せい 貧乏せい」と合唱するそうです。ちよつとハロウィーンと似ているような気がします。

亥の子の行事では、こどもたちは、豊作や凶作を左右する神様の化身で、おもちやお菓子は神様へのお供えものという考え方があつたそうです。十日夜では、「十日夜、十日夜のわら鉄砲、豆と小豆も よくみのれ」とか「十日夜、十日夜。朝そばぎりに 昼団子、夕飯 くつたらぶつぱたけ」などとはやしたてながら、地面を叩いて歩くのだそうです。威勢がいいですね。

十日夜は、「中秋の名月」「十三夜」に続いて三つ目のお月見の日でもあります。「十日夜の月見」あるいは「稲の月見」ともいわれています。

お供え物は、「大根」という地域も多く、「三省堂の年中行事事典」によると、旧暦10月10日を、大根の年取り、大根の年越しという地域も多いそうです。長野県、群馬県、新潟県の一部から東北地方にかけて伝承されているそうです。この日は、大根畑に入つてはいけなひ。畑へ入つて大根のわれる音を聞くと死ぬ、大根が首をのぼす、などと言ひ伝えられていて、なんだか怖いのですが、それだけ、大根は田の神へのお供え物として重要だつたということかもしれませぬ。旧暦10月10は新暦では今年は11月27日です。十五夜、十三夜を愛でた方も、見過ごした方も、ぜひ十日夜の月を見上げてみてください。

これから一日一日寒くなります。くれぐれもお身体に気をつけて立冬の季節をお過ごしてください。

すとう あさえ (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 会員)

■ともいき・ともうみ・ともさち、そして和。それは日本的なるもの「ジャパネスク」

★2018年度からの「道徳」の授業に「修身」の精神を。

全国の小中高等学校の昨年度の「いじめ」件数は32万件以上で、前の年より10万件増加、過去最高だつたそうです。その上、「いじめ」による自殺は200件以上。回りにいる大人たちは、それぞれの立場で「いじめ」を改善していくことを真剣に考えるべきです。

文部科学省はこのよつな状況を危惧して「道徳」の授業を義務教育において教科化するということを決ました。(小学校が2018年度から中学校が2019年か

ら。)

戦前は小学校の授業に「修身」があり、日本人が大切にしなければならない道徳観や義理、人情、思いやり、いたわり、忠義、善行などといった全てが分かりやすく解説されていました。

そんな修身の教科書をみんなで読み、人として大切なものを身につけ、日本という国に誇りを感じるようになったのです。

われわれ日本人は日本の古き良き伝統である「修身の精神」を今こそ取り戻すべきと私は強く感じています。

「心の耀き」を見せている美しい人々も多くおりますが、子どもにも大人にも「暗く荒れた心」が目立っている今の日本の社会、こういう時代だからこそ、今一度、修身の精神を見直し、2018年度から始まる「道徳」の授業に取り入れるべきだと考えます。

皆さんのご意見をお聞かせください。

★NPO PTPL 会員の 内田一弘さん(一般社団法人ナチュラルドッグスタイル理事)からコメントをいただきましたのでご紹介します。

勝田祥三氏の投稿を拝読して

※2018年度からの「道徳」の授業に「修身」の精神を (FB「ジャパネスク」10月27日をご覧ください) <https://www.facebook.com/japanesque.tokyo/>

いまこそ、心の芯を耕し、豊かな心を育む修身精神を求めたいという勝田祥三氏の投稿に賛同の声を上げました。昨今、新聞等で報じられているいじめや暴力の急増と低年齢化及び凶暴化は、日本の未来を揺るがす深刻な社会問題と思っています。

**来年度より、小中学校で道徳が教科へ**

敗戦直後より教育もGHQ監視下にあり、それ以来今日まで、修身教科が等閑にされてきた歴史背景はご承知の通りで、平成30年より小学校、31年度は中学校で道徳が教科化により、日本を長年にわたって支えてきた日本のよき伝統の美質が発揮され、これまで学力向上一辺倒だった戦後教育が改められるかと思うと、ようやく教育再生第一歩を踏み出す実感が湧いてきます。

**子供をめぐる様々な現代的課題が**

しかし、この度の道徳教科が始動するからといって安心し、学校にだけ任せておけば、今日のいじめ・暴力は解消されるのかと不安があります。

いま、子供をめぐる様々な問題は、社会構造の変化など複雑な要因から生じているのではと考えます。

都市化や人口の都市集中で子供が自然とふれあう機会がなく、また、子供の安全を守る観点やITゲームの普及、ネット社会の出現、少子化などから室内での

一人遊び、進学率の増加等々が指摘されているからです。

### 子供の成長を支えるには地域と学校の協働ワークか

子供間のいじめや暴力の温床が醸成されないようにするには、私たち大人が、子供が参加する地域づくりの社会体験活動や、学校を支えるため地域・保護者・企業等が連携し、住民や民間が教育に関わる協働活動など横の関係づくりなど、子供ひとりひとりの成長に関心を持って戴き、ひとりひとりがそれぞれの立場で声を上げていくことは極めて大切だと思いました。

今回の勝田さんの投稿は、日本の未来を担う子供たちに、夢を描く力、生きる力が育まれるには何が大切か、かつ、子供も大人たちも社会にも蔓延する病理に立ち向かうには、道徳の大切さを提起し警鐘するものと拝察しました。

11月1日

内田さん、どうもありがとうございました。



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■事務局便り

●「立冬」の節気です。今年も早いもので後2か月をきりました。暦の上では冬といっても、東京ではこれからが紅葉シーズンの本番、都内の紅葉黄葉の名所地も人びとで賑わいます。私はイチョウの葉が落ち、歩道などが黄色の絨毯を敷いたような風景が大好きなので、楽しみはまだまだ先のようです。

●是非、NPO PTPL が企画制作運営するサイト・FB をご覧ください。

「NPO PTPL 公式ホームページ」：<http://www.plantatree.gr.jp/>

「ジャパネスク」：<http://www.japanesque.tokyo/>

「ともいき暦」：<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2016/>

「ともいき ぐらし」：<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>

「おらが富士 計画 ふるさと富士山探し」

<https://www.facebook.com/oragafuji/>

「不思議・驚き・魅力のジャパネスク」

<https://www.facebook.com/japanesque.tokyo/>

●会員募集のご案内

NPO 活動（ジャパネスク運動）を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPL では、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。お力添えのほど、どうぞよろしくお願ひします。

詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAX にてお尋ねください。

NPO PLANT A TREE PALNT LOVE 事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-7-11 東都ビル 201 号

電話：03-6432-5911 FAX：03-6432-5912

Email：info@ptpl.or.jp